

平成29年11月21日

八丈島一般廃棄物管理型最終処分場
運営協議会座長 奥山 拓様

八丈島一般廃棄物管理型最終処分場
運営協議会委員
長田隆弘 村田住安 丹下遊

運営協議会における事前質問のお願い

本年度の運営協議会開催にあたり、円滑有益な協議会を求め下記内容について事前に質問書を提出します。昨年同様、運営協議会にて文書、記録、写真、ビデオで説明をお願いします。なお、質問内容については各運営協議会委員に伝えて頂きますようお願いいたします。

1. 本年7月に提出した質問書と回答について、委員全員で共有して頂きたく説明をお願いします。
 - 1) 臨時運営協議会開催と質問についてお願い。
 - 2) 臨時運営協議会開催と質問についてお願い。回答。
 - 3) 運営協議会委員と八丈町民に広報をお願いしましたがどのようになりましたか。
 - 4) 三宅島からの焼却灰が主灰と飛灰の混合だった件を、「広報で住民に知らせる。」というお話でしたがどのようになりましたか。

2. 安全管理マニュアルについて教えてください。
 - 1) 埋立作業について
埋立作業は「遮水シートを破損する恐れのある廃棄物は(鋭利なもの、堅いものなど)は、目視確認の上除去するとあります。
一組のホームページで紹介されている「八丈最終処分場における地下水と安全性について」のP56「焼却灰の埋立方法」には、「鋭利な物」として釘が埋め立てられていますかどのような内容なのか説明をお願いします。

 - 2) 埋立地内の水たまりについて
埋立地内に「水たまりの発生がないか目視による点検」を行うことになっていますが、事業開始からの水たまり状況(日数もしくは出現回数)を教えてください。

埋立地内は、「遮水シートに大きな水圧をかけることは好ましくないため、極力、埋立地内には浸出水を貯留しないようにする。」「転圧した廃棄物は必ずしも透水性が良くない。したがって将来集水しがたくなった場合は、浸出水を速やかに排水する方策を講じる。例えば、堅型ガス抜き管に接続する水平ドレーンなどを設置する方策が考えられる。」
となっていますが、これまでどのような方策を講じ、どのような効果がありましたか。

 - 3) 八丈島水海山処分場ならではの運営管理マニュアルの作成について
運営協議会は、「周辺の環境を保全し、住民生活の安心及び安全を確保する観点から、処分場の管理運営等について確認又は協議することを目的としています。」
今年度におきましても上流のモニタリング井戸には水がたまず、井戸底に置かれたバケツ水を調査対象としています。環境省が良いと判断したからそれで良いというわけではなく、住民が安心安全と思える運営管理マニュアルが必要と考えます。

業務に従事している地元業者の意見も踏まえ、水海山処分場に適した運営管理マニュアルを協議する「委員会の設置」を提案します。

 - 4) 水質検査の立ち会いについて
毎月東京から来る業者さんの水質検査に立ち合っていますが、今月は立ち合うことができませんでした。地元住民としては、できる限り立ち合うことを望みますので、今後は水質検査日の公

表と連絡をお願いします。

3. 規約改正の提案

佐藤キエ子氏(日本大学文理学部地球システム科学科元教授)は、「水海山の降水量を測定したところ、雨量の多さのため欠測がたびたびあった場所。」(南海タイムス)と語っています。

平成27年度におきましては雨水で処分場内がプール状態になりました。

八丈島の地質、火山噴火史を研究して20年になる千葉大学大学院理学研究科の津久井雅志准教授は、「最終処分場計画地・水海山で、過去にも何度も洪水があったことを示す土石流の堆積物が見つかった。(中略)普段は水の流れがなくとも、台風や集中豪雨のときには周囲に降った雨が斜面に沿って集まり、泥や砂とともに路面を流れる。また、計画地周辺は急斜面であるため、手が加えられると不安定になり崩れやすくなるという。」(南海タイムス)と確認しています。

平成26年度におきましては、処分場排水が流れる下流域で土砂が崩れたのは、昨年の運営協議会で周知の通りです。

私たちは今年度におきましても安全性の確認から、「臨時」運営協議会の開催を求めましたが「必要性はない」との見解で、これまで一度も開催されていません。

要綱には、(会議の開催)について、委員はその3分の2以上の多数が必要と認めるときはいつでも座長に会議の招集を求めることができる。

とされていますが、「臨時」運営協議会の開催を求めるには現実的でなく、「前」要綱通り2分の1以上で開催できるよう要綱の変更を提案します。

4. 17年間の埋立について

水海山は、4000人を超える署名とともに処分場計画の見直しを求める住民の要請があった上で建設された処分場です。当初20億円だった建設予算費は7億円追加され27億円となりました。この7億円については、各方面に波紋を広げ「地盤改良費は、事前になんの連絡もなく、いきなり出てきた。これは一組への信頼性が揺らぐ問題。7億円の増額がわかっていたら、計画推進の要望は出さなかった」。(南海タイムス)と言う声があったほどです。

私たちは水海山処分場の建設が進む上で、ごみのイベントや会報の発行を行い住民のみなさんに「ごみの削減」を発信してきました。町、民間企業は古紙・ダンボールのリサイクルをスタートさせ、婦人部のみなさんは生ゴミの削減を全島に広めてくれました。

このような八丈町全体の取り組みで焼却灰の量は計画を大きく下回っています。

ごみの削減は、17年間に埋め立てる焼却灰量を少しでも少なくし、安全安心に水海山処分場の運用を終えたいという島民の思いが行動に移されたものです。

一組のみなさんは、住民説明会、工事説明会、運営協議会で「処分場の運用は17年間。」と私たちに説明してきました。水海山処分場のパンフレットにも埋め立て年数は17年と掲載されていますが、一組職員さんの人事異動が行われるたびに変わる「説明のあいまいさ、重なる変更」から17年間で本当に運用が終わるのか心配している島民がいます。

一組議会にて確認のうえ承認して頂き、「処分場の運用が17年間で終わる」ことを八丈島町民に広報にてお約束していただけますようよろしくお願いします。